

🎬 編集部がオススメする映画

とあるプールが息を引き取るまでの、49 日間の記録。地域住民の喪失へのケアを問う。

『沼影市民プール』

1971 年、「海なき市にプールを」という市民の願いから生まれた沼影市民プール（武蔵浦和駅近辺）。「沼プー」の愛称で親しまれ、52 年間で約 600 万人が訪れたその場所は、子どもたちの遊び場であり、人々の健康を支え、名前のない出会いや関係が生まれる場所でもあった。しかし 2022 年、さいたま市は室外プールを解体し、新たに小中一貫校を建設すると発表。プールを必要とする 1 万人以上から反対の署名が寄せられるも計画は進み、わずか 2 年後にプールは惜しまれながら姿を消した。その後、市は三度の入札を実施するもいずれも不調に終わり、2030 年 4 月に予定されていた学校開校の見通しは依然として立っていない（2026 年 6 月現在）――。

今、多くの市区町村で公共空間をどんどん廃止し、民営化でそれを代替させようとしています。資本主義の最果てに訪れた、「市井の人たちを切り捨てる市政」の姿がそこにありま



©hydroblast

す。この作品は、1つの公共サービスの喪失が市民にどういった影響を与えるのかを丁寧にみつめています。公共の利益に携わる専門職の方々には、ぜひ見ていただきたい内容です。

■ 2026 年 9 月 5 日（土）よりシアター・イメージフォーラムほか全国順次公開
監督・撮影・プロデューサー：太田信吾